

# 研修ニュース

〒518-0814

三重県伊賀市上友生 785 番地

Tel&Fax 0595-21-8839 E-mail [iga-ken@iga.ed.jp](mailto:iga-ken@iga.ed.jp)



## 研修講座 B-14 食物アレルギーに関する研修 「学校生活におけるアレルギー疾患の管理」

【講師】 国立病院機構三重病院 長尾 みづほ さん

1月22日(月)、講師に国立病院機構三重病院 長尾みづほさんをお迎えし、研修講座「食物アレルギーに関する研修」を実施しました。

はじめに、食物アレルギーとその対応についてご指導いただきました。就学前の段階から「何の食物アレルギーがあるのか」を丁寧な聞き取りにより把握しておくことが大切であることを改めて確認しました。また、引き起こされた症状がどの程度に値するのか評価シートを基につかみ、症状に応じて適切に対応することも大切であることを学びました。特に症状が皮膚だけでなく、消化器や呼吸器など複数の症状があると判断できる場合には迷うことなくアドレナリン自己注射薬（エピペン）を使用することが必要であることを学びました。以下にアドレナリン自己注射薬（エピペン）を使用すべき症状の一覧を載せました。今一度ご確認ください。

（アドレナリン自己注射薬を使用すべき症状の一覧）

アドレナリン自己注射薬を使用すべき症状	
消化器の症状	嘔吐し吐き続ける 持続する強い（がまんできない）腹痛
呼吸器の症状	のどや胸が締めつけられる ケンケン 人が入るような騒音 ゼーゼーする呼吸 声がかすれる アアアア コブコブ 持続する強い喉の痛み 鼻がぶくぶく 息がしびれる
全身の症状	両やわが青白い 顔や唇が腫らぬ くらくらしている 顔が腫れにくい 全身がじんじんとする 意識がもうろうとする

これらの症状がある場合は、迷わずに打つ！

誰もがいつでも見られるようにする！

次に、アトピー性皮膚炎とその対応についてご指導いただきました。早期発見・早期介入が重症化予防につながることや運動等で汗をかいた時には、「シャワーで速やかに洗い流す」または「濡れたタオルで身体を拭く」ことが大切であることを学びました。

最後に、運動誘発喘息への対応についてご指導いただきました。運動する前にはしっかりウォーミングアップするなど事前予防をすることや発作が起きたと判断できる場合には運動を中止し、水分をとって楽な姿勢で休憩するなど適切に対応することが必要であることを学びました。

本講座を各校・園で還流いただき、今一度、役割分担や確認体制、緊急時への対応等について共通理解をはかっていただきますようお願いいたします。

### アンケートより 【一部抜粋】

- ・日頃から症状の観察を行うことやエピペンを打つタイミングなど保護者との話し合いでしっかり確認しておきたいです。また、職員へ情報を発信し、周知徹底していきたいです。(中)
- ・アトピー性皮膚炎について、教師も子どもの体の様子に気付き、保護者と協力して治療に向かっていくことが大切であることを学びました。また、外用薬について正しい知識を知ることができて良かったです。(小)